

大山青年の家 利用者100万人達成

大山町赤松にある県立大山青年の家が、5月24日に累計利用者数100万人を突破しました。

100万人達成の利用者となったのは、米子市長砂町子ども会のみなさん。記念セレモニーでは、所長ら施設関係者とくす玉を割って、大台達成を一緒に祝いました。

青年の家は昭和54年に開所。自然体験活動を通して青少年、青年団体の健全育成を図ることを目的に設立されましたが、現在は幼児から高齢者まで、幅広く利用されています。



▲記念のくす玉割り

開所37年目にして100万人を達成！！

「そろれっ！そろれっ！」

保存会が小学校運動会で『いさい踊り』

中山いさい踊り保存会が、5月23日(土)に行われた中山小学校運動会に出演し、児童と一緒に踊りました。中山小学校では、地域の伝統文化を伝承していこうと、平成14年から運動会でいさい踊りを演技の一つに取り入れていきます。以前は3・4年生のみで踊っていましたが、昨年から全校児童で踊っています。運動会前には、計4回、保存会のメンバーが小学校に向いて、踊り方・唄・太鼓のたたき方を指導しました。踊りだけでなく唄や太鼓にも多くの児童が挑戦し、当日は練習の成果を披露することができました。

保存会のみなさんは「皆が楽しく踊れてよかったです。伝統のいさい踊りを覚えて、ぜひ後継者に」と笑顔で話されました。



▶児童の唄と太鼓にあわせて

大切に育てます！人権の花

人権の花贈呈式が、6月4日に名和小学校で行われました。

「人権の花運動」は、昭和59年から、法務省と全国人権擁護委員協議会が全国的に取り組んでいる啓発活動で、主に小学校を対象とした運動です。子どもたちが協力して花の世話をすることによって、豊かな情操を育み、命の大切さや、思いやりの心を育てることを目的にしています。

贈呈式には法務局米子支局職員や、町内の人権擁護委員が列席し、サルビアの苗が贈られました。「人KENまもる君」も登場し、贈呈式は大いに盛り上がりました。

今年度は、米子人権啓発活動地域ネットワーク協議会からの指定を受け、町内4つの小学校が、この運動に取り組みます。



▶名和小学校で贈呈式